横浜市立 小山台中学校　　令和5年度

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

『未来をたくましく生きる力を育てます』
〇自立
〇協働
〇挑戦

教育課程全体で育成を目指す資質・能力

	具体化した資質・能力
〇基礎・基本の確実な習得を図り、知識を活用する力 〇コミュニケーション能力を高め、協働して問題解決する力 〇地域との結びつきを深め、持続可能な社会を目指す姿勢	習得した知識・技能を効果的に活用する能力　日常の中への課題に気づく能力 一人ひとりの個性や多様な文化を尊重し、対応できる能力

中期取組目標

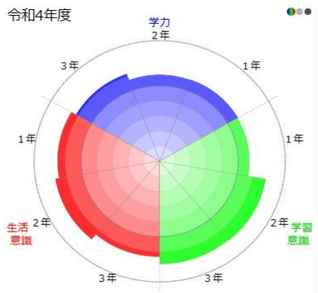
・主体的に学ぶ態度を育み、わかる喜びを実感できる授業の実践を目指します。【基礎・基本の定着】
・生徒一人ひとりを大切にするきめ細やかな指導を継続し、学校が安心して過ごせる場となるように努めます。【人権、共生社会】
・挨拶を大切にし、人との関わりを深め、行事や体験活動を通して互いの良さを認め合うとともに、たくましく生きる力を育てます。【コミュニケーション能力、体験型の学習】
・体力向上一校一実践を推進し、学校生活の中で体力向上に取り組みます。【体力向上、食育】
・地域行事やボランティア等に、進んで取り組む姿勢を育てます。【地域貢献、社会に開かれた教育課程】

学力向上アクションプラン

重点取組分野		具体的取組
確かな学力	担当：学習指導部	①主体的に学習に取り組む姿勢をめざし、授業目標を明確にし、「見通し」と「振り返り」を生かした授業を展開する。②基礎・基本の定着のために分かる授業を行い、教科相談日を設けて学習に対する不安を解消させていく。③組織的な授業評価を行い、授業改善に生かす。④思考力や判断力、生きる力を育む授業研究を推進する。

学力向上に関わる本校の状況

(1)学力の概要と要因の分析
〇全体的に学力は市の平均を上回っている。学習意識は学年によってバラつきはあるが、高い数値となっているので、今後も主体的な取組を支援し、授業改善や学習相談を通して、学力を伸ばしていきたい。
〇全学年とも「文章を書くことが好きである」という項目が高い数値になっている。読むことも同様であり、基礎・基本の部分での関心はあるので、それをベースにしてさらに発展的な学習につなげていきたい。



今年度の目標

・基礎・基本の定着をはかる授業を展開し、主体的に学ぶ姿勢を育み、自らの学習課題を解決できるようにする。

目標を実現するための具体的行動プラン

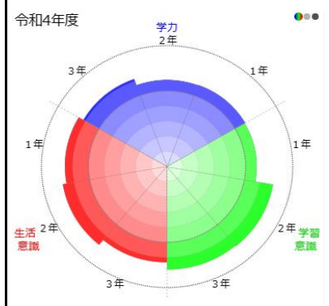
上半期	〇年間の学習計画や授業目標を提示し、学習に対する取組を確認して、基礎・基本の定着をはかる。授業と家庭学習の反復を進め、インプットとアウトプットを繰り返し、学力の定着をはかる。 〇定期テストでの学習についても、取り組み方を含めて、丁寧に展開していく。 〇最初に評価評定についての説明を行い、学習の進め方につなげていく。機会があるごとに授業に対する姿勢、定期テスト、提出物、レポートやワークなどの評価項目について理解をさせていく。
下半期	〇前期の評価評定を基にして、生徒自身の振り返りを行い、良いものと課題があるものを把握させて、今後の学習課題や取り組み方について考えさせる。さらに具体的な取組について考えさせて、実践できるように支援していく。 〇主体的な学習ができるように授業改善を行い、学習相談などを展開する中で、生徒の学習意欲や学習に対する取組を高めていく。 〇1年間の学習に対する取組の振り返りを行い、次の学年への意識を高める機会をもつ。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野		具体的取組
豊かな心	担当：道徳	①道徳の授業や行事などの経験をもとに自らを振り返り、意見交換を通して物事を多面的に考え、今後の生活に変化を生み出そうとする姿勢を育む。②人権講演会やワークショップ、人権作文、平和学習などを通して、人権意識や態度を高め、感性豊かな生徒を育む。③挨拶運動を展開し、相互の関係を深める。

豊かな心に関わる本校の状況

(1)豊かな心の育成に向けた生徒の実態と分析
〇生徒は穏やかに生活している。学校自体も落ち着いていて、学習活動や行事などに一生懸命に取り組む姿勢が見られる。
〇課題解決に向かったり、話し合い活動を行うこともできる。「自分のことが好き」「自分には良いところがある」は全体的な数値は高いが、そう思っていない生徒もいるので、自己肯定感を上げていけるような活動や働きかけも必要である。
〇挨拶などの基本的なマナーは良い。さらに学校全体として高めていきたい。



今年度の目標

道徳の授業や各教科での取組を通して、豊かな心を育成していく。行事や生徒会活動などにおいても、協働して取り組む中で、自己肯定感を高めていく。

目標を実現するための具体的行動プラン

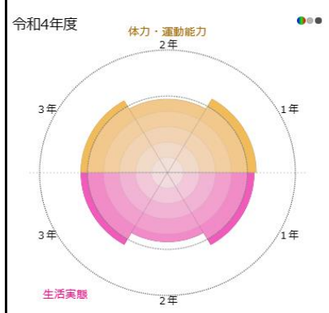
上半期	〇道徳の授業において、意見交換や主体的な取組を行い、生徒個々の考えに共感したり、深め合う活動により、生徒の自己肯定感を高めていく。 〇学期のスタートにおいて、集団づくりを行う中で、認め合い、支え合えるための仲間つくりを展開する。話し合い活動やグループワークなどを行い、自分の意見を言って、他の人の意見を聞いて、総合的に結論を出したり、課題解決に向かう活動により、集団の力をプラス方向に上げていく。 〇遠足や校外学習、体育祭などの行事を通して、交友関係を広げたり、深めたりする過程で、豊かな心を育成する。
下半期	〇前期の振り返りを行い、自分の言動や集団の雰囲気などを見つめて、良い所と課題を見出し、これからの活動に生かしていく。 〇後期の行事やイベントなどにおいて、さらに豊かな心を育成できるように、生徒の主体的な活動を増やし、自分たちでクラス、学年、学校をつくっていく取組ができるように支援していく。 〇道徳の1年間の振り返りを行い、この1年間で成長できたことを自ら把握し、さらに自分を高めるために何を行っていくかを考える機会をもつ。 〇1年間の振り返りを行い、次の学年への意識を高める活動を行う。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野		具体的取組
健やかな体	担当：保健体育部	①保健体育科授業、学校行事、部活動等の場面を生かして、体力作りを推進する。②日常の健康観察を徹底し、健康的な学校生活を送れるように取り組む。③感染症予防、生活リズム、食に関する教育を進め、健康に関する意識を高める。

健やかな体に関わる本校の状況

(1)健やか体に関わる児童生徒の実態
〇横浜市体力・運動能力調査では、「朝ごはんを毎日たべている」児童の割合が9割近くいるが、「たまに食べない」が一定数いる。
〇横浜市学力・学習状況調査の生活・学習調査では、学年が上がるにつれて睡眠時間が少しずつ減っている。
〇横浜市学力・学習状況調査では、体を動かすことが好き・どちらかといえば好きと答えた生徒が全学年約8割いる。



(2)これまでの学校の取組状況
〇体育科ではICTを活用しながら、自分の課題発見や他者へのアドバイス活動することで、他者とのコミュニケーションを大切にした授業づくりをしてきた。

今年度の目標

・体力向上一校一実践を推進し、学校生活の中で体力向上に取り組みます。【体力向上、食育】

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	〇課題解決に向けた具体的な実践につなげられるようにするために、体育科の授業で学習カードに自分の考えをまとめられるようにしたりお互いにアドバイスしあったりできるようにする。 〇家庭科の授業を通して、栄養バランスの良い食事を自ら考え、自分の生活とも関連させながら考えることができるようにする。
下半期	〇食育を通して、健康な生活を送るうえで食事が果たしている役割を理解できるようにする。食事を含めた規則正しい生活が健康に深く関係していることを知り、自分の生活を振り返ることができるようにする。 〇毎日の生活習慣が原因となって起こる病気について知り、正しい生活習慣の大切さを理解できるようにする。 〇自分の生活を振り返り、生活習慣病を防ぐ態度を身につけさせる。